

ぶどう本収穫 2 年目における栽培支援

対象者 湖南省夏見 N 氏

【普及活動のねらい】

N 氏は湖南省夏見地域で平成 30 年度からぶどう栽培に取り組み、今年から本格的に収穫を始められました。しかし前年度の初収穫では、枝葉の管理や病害虫の診断が遅れ、果実の収量や品質を落とす結果となりました。そこで、ぶどうの栽培管理技術の習得および向上をねらいとして、栽培管理の実演指導や注意を要する病害虫の対策について、知識の習得を支援し、ほ場での病害虫診断指導を行いました。

【普及活動の内容】

品種別の枝葉および結実管理技術の習得指導

栽培品種ごとに副梢管理や摘粒方法、葉色を参考にした追肥の可否の判断方法等について指導しました。また、適期作業の実践のために、各作業のチェックリストを用意し、チェックリストに作業日を記入してもらうことで、作業状況を N 氏と共有しながら指導を行いました。作業後は N 氏とともにほ場を確認することで、改善点を精査し、栽培管理技術の定着とともにさらなる技術の向上を図りました。

病害虫防除技術の習得指導

昨年は病害虫被害により収量や秀品率の低下がみられました。そのため、本年度は各月ごとに発生が予想される病害虫をリストアップし、各病害虫の発生条件、症状、防除方法等について資料を用いて説明し、ぶどうにおける病害虫の知識習得を支援しました。

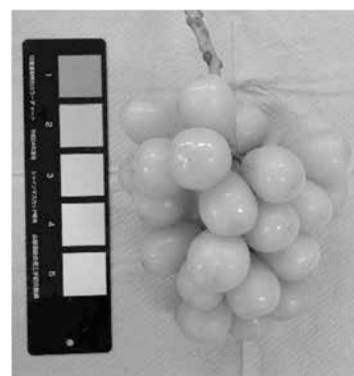
また、各病害虫の発生時期にほ場を巡回し、病害虫が確認された場合には、N 氏に配布した資料と突合しながら、自分の目で確認してもらうことで、病害虫診断技術の向上を図りました。



各月ごとの注意すべき
病害虫について説明

【普及活動の成果】

ぶどうの各樹の主枝長に応じた房数の基準や房重を定め、うえで摘粒や摘房作業を行ったことで、目標としていた 10a あたり 350kg の収量をほぼ確保することができました。病害虫防除については、本年度も病害の発生が多少みられたものの、自身で異変に気づき、防除対応されるなど、着実に病害虫診断技術を習得されているように見受けられました。今後も、今年度の反省を生かしながら、ぶどうの栽培管理技術の習得に向け、支援を行っていきます。



収穫された
シャインマスカット